

# 下町河川 Tomorrow

東京都の江東内部河川流域連絡会の情報紙（会議録）

平成17年10月31日（月）

## 第20回（第4期第2回）江東内部河川流域連絡会を開催

旧中川（江東区船番所資料館前）の様子

船による現地視察（荒川ロックゲート通過）の様子



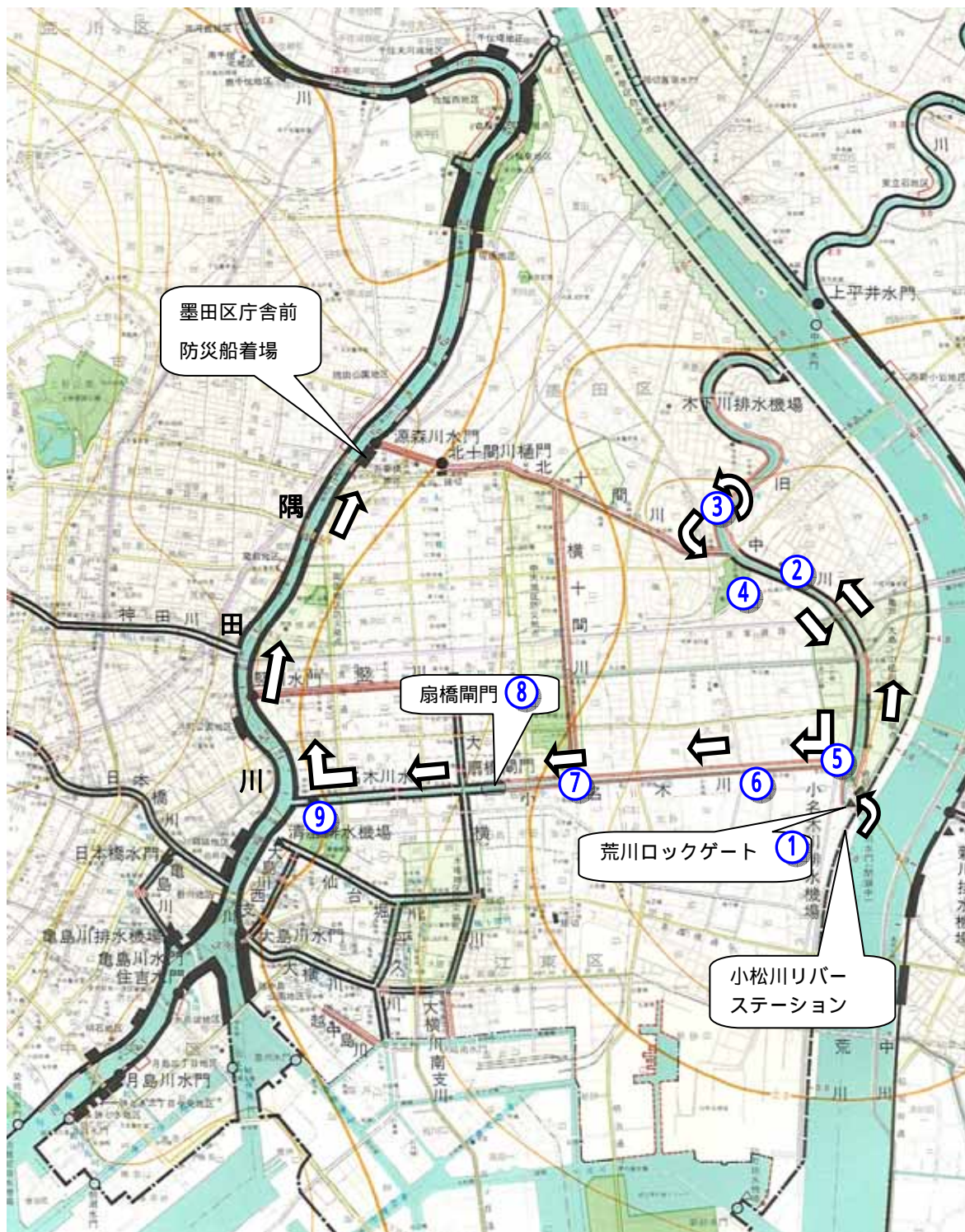
会議の様子

- ・「第20回（第4期第2回）江東内部河川流域連絡会」を、午前9時45分から約2時間で荒川から旧中川、小名木川、隅田川へと船による現地視察を行い、その後、約1時間で墨田区131会議室において会議を実施しました。
- ・都民委員15名と墨田区、江東区、江戸川区、東京都江東治水事務所の行政委員4名等が参加しました。名簿は6ページ
- ・会議では、現地視察の感想・意見、流域連絡会の今後の進め方などについて、意見交換を行いました。

## 流域連絡会の現地視察

荒川の小松川リバーステーションから乗船して、荒川ロックゲート、旧中川、小名木川、扇橋開門を船から現地視察しました。そして、隅田川の墨田区庁舎前防災船着場で下船しました。

### 現地視察コース図



丸数字は後ページの写真箇所



## 流域連絡会の議事の概要

### 現地視察の感想・意見

都民委員 行政委員

船で水面から見るということで、普段と違った視点で見ることができて非常に有意義だった。また、嵩上げた護岸を一部切り取ることで、環境が良くなり川の方にも目を向けてもらえることから、環境や河川についての意識ももっと高まると思う。

環境がよくなればよくなるだけ、ルールを破る人も出てくるということを懸念する。最初にしっかりとした河川の利用方法のルールを決めて、あとで、憂いを残さないようなあり方にしてもらいたい。

過去にキティ台風などの水害にあったが、この治水工事のおかげで、水が出なくなった。また、川がきれいになってきており、和船の活躍の場所が広がるのではないかと感じた。

旧中川と小名木川の印象が全然違う。旧中川では、親水性が高いだけでなく、後背地の亀戸中央公園と一体的な整備が工夫されていた。小名木川でも、公共的な建物が川に面している場合、連携して広がりのあるイメージを持てるような護岸整備をしてほしい。

船に乗ったことで、海につながっている荒川、隅田川と、水位低下した江東内部河川の間には水位差があり、この地域の地盤が海面より低いことを実感できた。一般住民にこのような体験をする機会を多く設けてほしい。

人間が集まって高密度に住む社会の中で、川と自然との共存が、これほど難しいものなのかということをつくづく感じている。

河川を整備すると同時に、人々が実際の生活の中で水面を利用して楽しむような検討をしてもらえれば、さらに水面、河川が都市の中の環境としてよくなっているのではないかと思った。

自然の河川で遊んでいて、都市河川であり支流の江東内部河川の水質を、本流である荒川よりきれいにしなければいけないと思った。また、川から見る風景に関しても、護岸が非常に高く威圧感があり、護岸から跳ね返ってきた波は自然の川原の波よりも非常に強い。



① 今年の 10 月に完成した荒川ロックゲート。ここを通過して水位低下した旧中川に入ります。



② 旧中川のふれあい橋付近。8 月には「灯ろう流し」が行われます。



③ 旧中川の江東新橋北側。整備の途中で、アシなどが茂り自然が残っています。



④ 旧中川の亀戸中央公園付近。手前に島が点在し、後ろの公園と一体的に整備しています。



5 ビルに挟まれた番所橋付近の小名木川。橋の西側から整備を始めています。



6 水位低下した小名木川の背面状況。整備により既設護岸を撤去しています。



7 小名木川と横十間川が交差するクローバー橋付近。9月には「水彩フェスティバル」が行われます。



8 扇橋開門。ここで、小名木川の東側と西側の水位差を調節して船を通します。

現在、小名木川の東側で整備が進んでいるが、江東内部河川の整備を均等に配分するより、整備が進んでいるところを完成させていった方が、河川の使われ方として有効ではないかと感じた。

最近、地震が多いことから、耐震護岸を注意していた。予算も限りがあるが、早期に完成してほしい。前の船のスクリューが川底のヘド口をまきあげたので、その臭いに閉口した。今もまだ頭痛が治っていない。

河川整備の重要性がよく分かった。整備の際の経済性だけでなく、環境への負荷など、将来を視野に入れた整備が、今後必要ではないかと思う。また、これだけ重要なことをやっていることを一般住民へ伝えるような施策が必要だと思う。

江東内部河川の総面積は広く、そこにある都市内の数少ない自然の美観、考えを大人だけでなく子供たちに見せたり経験させたりする機会があると、将来が開けてくるのではないかと思った。

旧中川は自然がけっこう残っており、大事にしなければと感じた。河川は地震対策などの治水が最も重要であり、そして初めて楽しめる場所になると思う。また、河川敷が人々に利用されないと、ホームレスに利用されてしまう。

ホームレスの問題は、川を利用する人が多くなると、ホームレスが居づらくなると思うので、ただホームレスを追い出すのではなく、楽しめるようにして多くの人が利用するような工夫が必要だと感じた。

河川敷や堤防の上からでは、見ることができない船上からのすばらしい景観にとっても感動した。地域の人たちに、この感動を体験してもらうため、このような機会を多く設けてもらいたい。



9 小名木川と隅田川の間の新小名木川水門。平常時は開いていますが、高潮や大地震時は閉鎖して水害を防ぎます。

## 流域連絡会の今後の進め方など

都民委員 行政委員

都市河川は、都民の下水の受け入れ河川であるということが、汚濁の原因のひとつと思う。水辺が人々に愛されて、生活の中で生きてゆく川とするならば、水質を良くすることが第一条件だと思う。

都市の限られた空間の中で、経済性を考慮して、下水道システムは下水と雨水との合流式になっています。下水道の整備が進む中で、合流式下水道の改善を行っていますので、今後の流域連絡会で説明していきます。

一般住民に対する広報活動を積極的にやったほうが、河川を整備する上で方向性が見えると思う。そして、整備されたものの利用をどのように高めていくかは、地域の住民から、利用の視点でいろいろな意見を言ってもらうことで効果があると思う。

町会単位ぐらいで、川に関する日常的なものを記録してもらうことは大事なことで、流域連絡会での議論に役立つと思う。それを川守ということで、行政から任命できればと思う。地域の方に水辺に親しんでもらうため、船に乗る機会を増やし、屋形船屋などに協力してもらっている。その際、不法係留の船なので、防災船着場の利用を行政に認められなかった。船が不法係留かどうかは一般住民が見てもすぐにわからないし、防災船着場はこのような船にも協力してもらえなければ機能しない。また、船が泊まっているのは情緒あるいい風景だと思う。係留の許可証などや防災船着場の考え方を整理してほしい。

墨田区の防災船着場については、国の補助を受けて整備したので特に営業関係の使用が認められていません。利用の際には、事前に届け出た利用目的を確認して使用していただいています。

江東区の場合は、廃止した水上バスステーションの有効活用として、防災船着場に指定しました。防災船着場の利用については、今後も住民の皆様と相談していきたいと思います。



荒川ロックゲートの開通に伴う不法係留船対策については、初期対応が非常に大事だと考え、関係する墨田、江東、江戸川の三区と東京都で連絡会を設けて取り組んでいます。また、江戸川区では地域住民にも協力していただくため、町会等にチラシを配布して、不法係留船を見かけた時の連絡先をお知らせしています。



## 流域連絡会の今後の予定

次回の流域連絡会は、来年1月頃の開催を予定しています。その次は来年3月頃を予定しています。

## 江東内部河川流域連絡会・委員名簿

平成17年10月31日現在  
敬称略 都民委員は区別・50音順

		住所・団体名	氏名
都民委員	個人	墨田区	阿久沢 八代
		墨田区	石井 貞光
		墨田区	清道 洋一
		墨田区	田中 兼勝
		江東区	菊地 進一
		江東区	氷見 修三
		江東区	山広 勲
		江戸川区	芦田 正次
		江戸川区(勤務地)	堀内 仁之
		江戸川区	山内 久二
	団体	江東区の水辺に親しむ会	須永 淑子
		江東区和船友の会	松島 信治郎
		旧中川灯籠流し実行委員会	江頭 正恭
		小松川平井地区連合町会	谷川 貞夫
江戸川区ボート協会		渡辺 秀郎	
		所属・職名	氏名
行政委員	墨田区都市計画部都市整備担当都市整備課長		小山 季廣
	江東区土木部水辺と緑の課長		荒川 順二
	江戸川区土木部計画課長		高井 聖
	東京都環境局自然環境部水環境課長		芳賀 道子
	東京都下水道局建設部土木設計課長		中島 義成
	東京都下水道局東部第一管理事務所ポンプ施設課長		森田 茂
	東京都建設局河川部副参事(河川管理制度担当)		熊本 敬治
	東京都建設局河川部副参事(総合治水・低地河川防災計画担当)		新谷 景一
	東京都建設局第五建設事務所管理課長		大野 正實
	東京都建設局江東治水事務所内部河川工事課長		伊藤 政行
東京都建設局江東治水事務所水門管理課長		大塚 好夫	

座長

**連絡先**：江東内部河川流域連絡会事務局（東京都江東治水事務所内部河川工事課内）

**担当**：小菅、田村

**TEL**：03-3692-4945 (直通) **FAX** 03-3696-6499

**Email-address**：S0200225@section.metro.tokyo.jp